

J-CEF NEWS

no. 9

2016 WINTER

リレーエッセイ

○ 市民になることから始める

／東 大地（学生団体 ivote 関西）

実践事例紹介

○ 静岡市人材養成塾の取り組み

／松下光恵（NPO 法人男女共同参画フォーラムしずおか 代表理事）

書評

○ 相互文化的能力を育む外国語教育 ―グローバル時代の市民性形成をめざして―
（マイケル・バイラム 著、細川英雄 監修、山田悦子 訳、古村由美子 訳）

「ことばの市民」になる ―言語文化教育学思想と実践―（細川英雄 著）

／佐藤正則（めいと日本語学院）

特集

○ 「シティズンシップ教育を進める上で何を大切にすべきか？」

／山根和代（立命館大学国際関係学部准教授）

／野崎志帆（甲南女子大学文学部准教授）



市民になることから始める

学生団体 ivote 関西
東大地

70年ぶりに公職選挙法が改正され、18歳選挙権が成立しました。約240万人の有権者が誕生し、来年の7月に行われる参議院選挙から投票することが可能となります。また同時に重要な視点として、すべての大学生が投票権を有することとなります。しかし、若者の政治参加への希薄性から、ただ年齢が引き下げられただけでは、社会にとってのリスクになるかもしれません。より小さな単位である自治体、学校、家庭が連携し、権利と責任の押し付けではなく、「若者の声が必要だ」ということを発信していくと同時に、教育によって市民性を育てていかなければなりません。

少子高齢化がすすみ、私が社会科の授業で人口ピラミッドを学習した時は、すでにその型を保持していませんでした。戦後の経済成長に伴い爆発的に人口が増え、2004年にピークを迎えた後、次は同じ角度で人口が減ってきています。これから様々なアクターでの構造改革が必要であり、教育もその一手を担っています。何を学ぶかと

同位で、どう学ぶかの方法論も重要とってきています。

これらを受け、ivote 関西が注力しているのは、中高生を対象としたシティズンシップ教育の展開です。将来の有権者が政治と社会について学ぶことから、市民性の醸成を目指しています。関西を中心にこれまで10校で実施してきました。

ivote 関西の教育事業では、従来の一方向的なインプット型授業ではなく、生徒とともに一つの授業を成り立たせる「共創」をテーマにしています。アクティブラーニング形式を用いて、生徒同士で学び、個人とそして時にはクラス全体としての意見を形成します。ここで重要なのは、教員は問題提起とサポートに徹し、授業を展開していくのは生徒たちであり、生徒ひとりひとりの主体性が成立必要条件となります。

題材として扱うのは、実際に起こっている（起きた）生の社会課題です。その時々、首長選挙や街の問題点を摘出し、その街に住む一市民としての意

思決定や課題解決に臨みます。社会科の授業で得た選挙や政治の仕組みが、実際に私たちの街でどう活かされているのかを探求し、様々な生徒の意見を相対的に考えることで、自分の意見を深化させていくことができます。

ある工業高校での教員の方からは「生徒たちがこんなにも考えられる力を持っているとは思っていなかった。公共的に考えられる力が身についているようだった。」とご意見をいただきました。

最後になりますが、教員の方々に期待するのは、科目という大きな枠組みの中のシステムだけではなく、生徒たちが日々暮らしている街のことを實際例に、学習した政治のシステムやお金がどう機能しているのかをご教授していただきたく存じます。国民意識の醸成からではなく、まずは市民意識の醸成から。小さな民主主義から大きな民主主義へと思索できる効果をもつものが、シティズンシップ教育にあると考えます。

東大地 (higashidaichi01@gmail.com)